

一金六拾錢	大正五年度分	西方はるの
一金壹圓貳拾錢	大正四、五年度分	西村なすの
一金六拾錢	大正五年度分	望月つや
一金參圓也	明治四四—大正四年度分	北村すゑの
一金六拾錢	大正五年度分	鷺島文
一金六拾錢	大正七年度分	山口さん
一金壹圓也	大正五年度分 四十錢餘	水田みつ
一金壹圓貳拾錢	大正五、六年度分	岡田みつ
一金壹圓八拾錢	大正三、四、五年度分	平田愛子
一金六拾錢	大正五年度分	内山ヒイ
一金六拾錢	大正五年度分	塚原をりえ
一金二圓	大正五、六、七年度分 (二〇錢餘)	北村すゑの
一金六十錢	大正八年度分	吉田はつ
一金六十錢	大正六年度分	西方はるの
一金六十錢	大正六年度分	西村なすの
一金廿四圓六十錢	大正七年度分四十一名分	大正七、家卒
一金三十圓	大正七年度分五十名分	大正七、養卒
一金六十錢	大正八年度分	梶原かじ

會計報告 (自大正五年三月
至同 六年二月)

收入ノ部

繰越高	一〇三、〇八五
在校生雜誌代	三〇、六〇〇
會員會費	二二一、一四〇
計	三五四、八二五
支出ノ部	
第十號雜誌印刷代	九六、六〇〇
雜誌發送費	七、一二〇
談話會三回開會費	一九、一四〇
臨時小冊子和譯代	二六、〇〇〇
振替用紙代及振替受入料金	二、〇四〇
帳簿類印刷新調費	七、四八〇
雜費	一、五五五
計	一五九、九三五
差引高	一九四、八九〇
收入ノ部	
繰越高	一九四、八九〇
雜誌實費	五六、八五〇
會員年會費	一〇八、〇〇〇
利子	六〇〇
計	三六〇、三四〇

家事科學術談話會叢書一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六
 納戸模型製作代 二五、〇〇〇
 談話會四回講演謝禮 二七、〇三〇
 全上開會雜費及研究費 二〇、二〇五
 振替料金 六一〇
 雜費 二、三四〇
 計 二〇〇、三四五
 差引高 一五九、九九五

編輯係より

會員の諸姉へ

種々の都合で豫定外に會報の發行が遅延いたしました。お申譯がありません。此度から家事科會報と改名いたしました。數年前から技藝科は家事科と改名されましたので其に伴つていたした次第でございます。諸姉には益々御元氣にて御活動の御事誠に結構に存じます。目下何れの地におきましても家事科の研究必要を認められて日に發展の域に進みます事は私共にとりまして一層の勉強努力の必要をまします。つきましては多數の皆様御研究御經驗等の數々を御寄稿いただきたい。お互の御意見を廣く御交換下さいましたならば此會報も益々「無くてならぬもの」となります。事と存じます。故是非御多數の御寄稿を御願いたし

支出ノ部

今迄技藝科會の會計は餘り窮屈でもありませんでしたが、會員の數が増加いたしました。會報一回の發行にも七百部百二十圓といふ費用を要する様になりました。この十一號を發行いたしました後は會計は心細い様な有様になりましたので是非皆様から會費を御納めいただきたいのでございます。年會費六十錢でございますから、六十錢の倍數にして御送金下さる方が當會では都合が宜しいでございます。僅かの御送金は御厄介な事と存じますが先年より振替に加入いたしましたから其れを御使用下さいませ様に御願いたします。猶振替通信欄を御利用下さいまして何年の卒業、轉居、改姓などを御通知下さる様に御願いたします。

故安川先生

大正六年九月二十二日午前零時十七分、我等の敬慕し奉りし安川あい子先生は御病を以つて湘南の地に逝き給ふ。

先生は、明治十七年十月一日長野市に御誕生遊ばされ御幼時、長野縣師範學校附屬小學校に學び給ひ、のち長野市立高等女學校及同校補習科を経て、女子高等師範學校技藝科に御入學、同三十九年三月御卒業遊ばさ

會計係より

れ、直ちに愛知縣豊橋市立高等女學校に御奉職滿三ヶ年にして、母校甲部研究科に御入學、二ヶ年間専ら裁縫に關して御研究を積ませ給ひ、同四十四年三月御卒業と共に東京女子高等師範學校助教諭兼助教授に任せられ給ひ裁縫の御教授に力を盡させ給ふ。
ついで同四十五年三月第六臨時教員養成所講師を囑託せられ給ふ。大正三年高等官八等に叙せられ給ひ、文部省裁縫科中等教員檢定試験委員補助を命ぜられ給ふ。又共立女子職業學校講師及夏期には、福岡縣教育會主催の裁縫講習會講師として盡させ給ふ。翌年三月本校教授に進ませ給ひ、五月には文部省視學委員を命ぜられ給ひ。十月從七位高等官七等に陞らせ給ふ。此間御職に御勉勵なるの故を以つて其筋より賞せられ給ひし事再三に止らざりき。
然るに大正四年十月の末、御病を得させ給ひ急に相州茅ヶ崎南湖院に御入院静養し給ふ事となる。爾來殆ど二ヶ年にわたり彼地に御病を養はせ給ひしが、本年夏以來御病頓に重らせ給ひ、御養生の甲斐なく遂に御齡卅四を以ていと安らかに永遠の眠につき給ふ。

學術談話會家事科部會報終

御葬儀は、二十五日本郷教會に於て營ませられ、二十七日には御郷里長野縣埴科郡西寺淨心寺に於て御埋葬の御事も恙なく了らせ給ひと承はる。
故先生は、裁縫に關しては、實用的價值を認め、其目的に對して十分の效果あらしめんと、努め給ひしは勿論、間接的の價值即ち教育的價值をも非常に重んじ給ひ將來社會の中堅として立たんとする女性をして眞個に人として教育せんとの御心を以つて常に御指導遊ばされたり。
更に本校生徒の如き特別の任務を有するものにおいて、衣服に關する學術的知識を明確にし、進んでは、其鞏固なる基礎の下に、盛に他學科を應用し、衣服の改良などいふ事をも研究せざる可らず。この基礎の下に立たざるは改良などいふも眞に力あるものにあらざるなりとは、御意見の大體なれども、筆拙くして、よく其御遺志をあらはし奉るを得ざるは返へす返へすも遺憾とするところなり。
かくて先生は、實際に之等の方面に御研究を進め給ひ御著書の御計畫さへありしに遂に其御目的を達し給ふ事を得ざりしは實に惜しみ奉りても餘りある事なり。

大正七年十二月十五日印刷
大正七年十二月二十日發行

(非賣品)

發行所 東京女子高等師範學校内
學術談話會家事科部

編輯者 伊藤くら

印刷者 東京市京橋區新富町一丁目六番地
江澤三郎

印刷所 同
明正印刷株式會社

電話京橋(千二百九番
二千五百六番)